

農薬適正使用スローガン

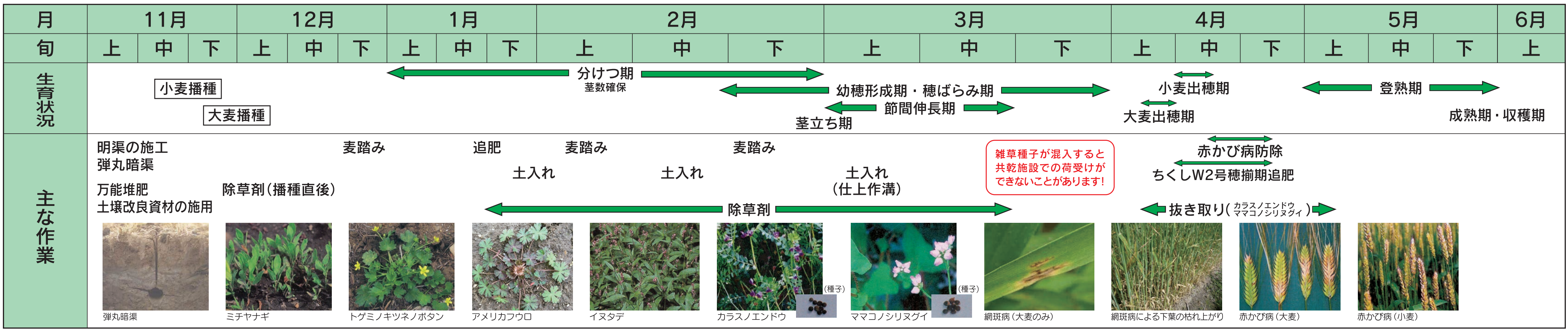
1. 散布前に必ず農薬ラベルを確認！
2. 散布時に、近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底！
3. 散布後に必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄！
4. 防除履歴は、正確に記帳！

令和5年播き（令和6年産）

麦作ごよみ



筑前あさくら農業協同組合
朝倉地域担い手・産地育成協議会



【喜ばれる筑前あさくらの麦】生産拡大運動

①共乾施設の誘導計画に沿った麦の作付け
②品質のアップ（評価項目達成のため）小麦 目標タンパク値 ちくしW2号 12.0%以上
チクゴイズミ・ニシホナミ 9.7%以上
大麦 目標容積重 709g/ℓ以上
③単収（収量）のアップ 目標収量 大麦 500kg/10a
小麦 500kg/10a
④生産履歴の記帳・GAP（生産工程管理）の実施

1. 排水対策…麦は湿害を受けやすい

・溝掘機による明渠施工
・弾丸暗渠（2m以内の間隔）
・畝立て播種
・ほ場の周囲と畝間の排水溝整備

・ほ場周囲に深さ20～30cm程度の明渠施工
・排水口につないでおく
・ほ場内のうね溝もこの明渠につなぐ

あぜ

	資材名	施用量	備考
必ず	万能堆肥	2t	地力増強・土壌物理性の改善
	稲わら	全量	耕起前に硫酸10kg/10aを施用（稲わらの分解促進）
いずれか	ミネラルG	200kg	鉄分・ケイ酸・微量要素の供給
	ケイ鉄		石灰・ケイ酸・鉄分の供給
	生石灰	120kg	酸性土壌対策

麦は酸性土壌を嫌う（特に大麦）
・土壌診断に基づく土づくり・・・適正pHを保つ（6.0～6.5）。腐植3%以上を目標とする。

3. 種子消毒

・種子更新・・・栽培履歴証明・品種固有の特性維持

	対象病害虫	農薬名	種子10kg当たりの使用量
大麦	網斑病	トリフミン水和剤	50g
	黒穂病		
小麦	鳥害	キヒゲンR-2フロアブル	200ml
小麦	ヤギシロトビムシ	クルーザーFS30	60ml

4. 播種基準（10a当たり）		
項目	小麦	大麦
播種適期	11月15日～25日	11月25日～12月5日
播種量	6～7kg	

※共乾施設の荷受期間内に収穫できるよう、適期に播種する。
※播種量が多すぎると倒伏しやすくなる。
※播種適期より遅播きの場合は播種量を多くする。
※播種深度は3～4cmとする。

小麦1升=1.5kg
大麦1升=1.3kg

5. 施肥基準（10a当たり）					
	品 種	基 肥	追肥① （1月中下旬）	追肥② （3月上旬）	成分量（10a当たりkg） N P K
大麦	はるか二条	ちくごのめぐみ444 （14-14-14） 40kg	①一発追肥体系 きばる麦追肥一発405 （24-0-5）30kg	—	一発追肥体系 12.8 5.6 7.1
	小 麦		②2回追肥体系 ちくごのめぐみ444 30kg	硫酸 10kg	2回追肥体系 11.9 9.8 9.8

注）大豆後作で地力が高い場合は、基肥を半量とする。

【ちくしW2号の穂揃期追肥】（10a当たり）【省力化施肥例】基肥一発肥料の施肥体系

穂揃期追肥① 出穂後5～10日後		穂揃期追肥② 1回目の7～10日後	
尿素葉面散布 1回目 5kg/水100ℓ （赤かび病防除と同時）	硫酸25kg又は尿素15kg	尿素葉面散布 2回目 5kg/水100ℓ （赤かび病防除と同時）	—

注）硫酸、尿素は朝露が乾いてから散布すること。
注）尿素葉面散布は気温の高い日中を避けること。

6. 雑草防除					(10a当たり)
除 草 剤 名	対象雑草	使用量並びに水量	使用時期	注 意 事 項	
ラウンドアップマックスロード バ ス タ 液 剤 ブリグロックスL	イネ科 広葉雑草	500ml 500ml 1000ml	水100ℓ	耕起前	
リベレーターG(粒剤)	イネ科	4～5kg	均一に散布	●リベレーターは、散布後、大麦で白化症状を生じやすいが、その後の生育・収量に影響はない。 ●土壌が乾燥しているときは水量を多くする。 ●薬害回避の為、覆土は3cm程度とする。 ●重複散布やムラ散布に注意する。	
リベレーターフロアブル	広葉雑草	60～80ml	水100ℓ		
ハ ー モ ニ ー D F	イネ科・広葉雑草 (キツネノボタン ミチヤナギ アメリカフウロ タデ類 カラスノエンドウ)	5～10g	水100ℓ	小麦 播種後～穂ばらみ期 (収穫45日前まで)	
バサグラン液剤	広葉雑草 (キツネノボタン ミチヤナギ アメリカフウロ ヤエムグラ タデ類)	100～200ml	水100ℓ	大麦 播種後～節間伸長期	
				小麦 生育期 (収穫45日前まで)	
エコパートフロアブル	ヤエムグラ (ノボリグサ) (2～6節)	50～100ml	水100ℓ	大麦 生育期 (収穫90日前まで)	
				節間伸長期開始期まで (広葉雑草2～4葉期、 ヤエムグラ2～6節)	
				●散布後、麦の葉に一過性の軽微な白斑・白点を生じますがその後の生育・収量に影響はない。	

※野菜等がある所では散布に十分注意する。
※共乾施設での種子混入防止のため、雑草が多い場合は播種直後と中期の2回雑草処理を行う。
※ネズミムギ等が発生するほ場では、1月上旬にトレファノサイド乳剤を300ml/100ℓ散布する。

7. 麦踏み・土入れ

1）麦踏みは、12月下旬～2月下旬の間に3回程度必ず行う。
2）土入れは、除草・作溝を兼ねて1月下旬から3月上旬までに3回程度必ず行う。
3）土入れ・麦踏みは土壌が乾いている時に行う。

8. 病害防除基準

赤かび病防除を必ず行ってください！！

防除を行っていない麦は共乾施設等での荷受けはできません。

※赤かび病に弱いちくしW2号とはるか二条は2回防除する。

※その他の品種については、開花期以降も雨が多い場合は2回防除が必要。

防除時期	農 薬 名	散 布 量		対象病害		使用回数	
				赤かび病	網斑病 （大麦）	大麦	小麦
網斑病：3月中下旬 赤かび病：4月20日頃 （2回目は1回目の7～10日後）	ワークアップフロアブル	2000～3000倍	水100ℓ	○	○	3回	3回
	ワークアップ粉剤DL	3kg		○	○		
	シルバキュアフロアブル	2000倍	水100ℓ	○	○	2回	2回
	トップジンM水和剤	1000倍	水100ℓ	○	—	1回	2回

※網斑病が多発すると減収する。
※ドローン散布の場合は、希釈倍率が変わります。

9. 収 穫

1）出穂後収穫前までにカラスノエンドウ・ママコノシリヌグイの抜き取りを徹底する。
2）麦の早刈りは品質を著しく低下させる。
3）刈取適期は、成熟期より3～4日遅らせた時期。（穀粒水分25%以下）
4）土づくりのため硫酸10kg/10aを施用して麦わらをすき込む。

10. 品種特性							
麦 種	品 種 名	出穂期	成熟期	稈長cm	穂長cm	耐倒伏性	穂発芽性
大 麦	はるか二条	4.7	5.22	79	6.5	強	やや難
	ちくしW2号	4.11	6.1	84	9.2	強	難
小 麦	チクゴイズミ	4.12	6.1	88	8.5	やや強	中
	ニシホナミ	4.15	6.3	79	8.4	強	難

注）農薬購入の際は印鑑持参のこと。
注）農薬、肥料は令和5年8月16日現在の登録状況に基づき、記載しています。

農薬、肥料、資材の注文はJAへ！！